

平成 25 年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2870200629 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 光期会 | | |
| 事業所名 | グループホームオリンピア灘 | | |
| 所在地 | 兵庫県神戸市灘区灘北通3丁目1-15 | | |
| 自己評価作成日 | 2013年12月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年3月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 H.R.コーポレーション | | |
| 所在地 | 兵庫県西宮市松風町2-5-107 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年1月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しいことにチャレンジを続けるオリンピア灘は、「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、利用者の可能性を最大限に引き出すケアを行っている。今年度はパーソンセンタードケアに沿ったテーマを月毎に設定し、ユニットで議論し合い、その成果を全体で共有することにより、ユニット同士が競争し高めあっている。住み慣れた地域で継続してケアを受けられる共用型デイサービスは、利用者スタッフとの信頼関係を築いた上でのグループホーム入居という理想的なスタイルを確立している。更に10月に居宅介護支援事業所をオープンし、より適切に地域のニーズに応えられるように努めている。灘区「地域力を高める」手作りの活動・事業助成を今年度も受け、地域住民とともにSalon de l'Olympia Nada(講演会等)を開催するなど、地域との協働の機会を増やし、地域住民の認知症理解を深めることにも貢献している。今後もオリンピアの創立から脈々と受け継がれてきた「イエスキリストの愛と奉仕の精神」を大切に守り、一層の飛躍を目指していく。

「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、利用者スタッフとの信頼関係を大切にしている理想的なグループホームである。Salon de l'Olympia Nadaの活動の継続により、地域との交流の機会や理解が深まり、より広範囲の地域で理解してもらえるようになってきている。また、地域の方に無料で講演会を開催しており、事業所だけでなく、発達障害への取り組みについても理解してもらえるよう取り組んでいる。職員は日々の生活の中で利用者一人ひとりの思いを常に把握して、個々の生活スタイルに合わせた支援を行っている。少人数、個別に出かける機会を持ち、日々の生活が活力あるものになるように支援を行っている。下肢筋力向上も屋内での生活行動やテレビ体操など自然な形での支援をおこない外出が楽しめるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および第三者評価結果

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「高齢になっても、今まで通りに誇りを持った暮らしを地域の中で安心して続けるお手伝いをさせていただくこと」を理念とし、理念実践のための3つの約束とともに、毎日の朝礼、カンファレンス、内部研修等を通じ、全職員で共有、実践している。また理念に沿った月毎のテーマを決め各ユニットで議論している。 | 今年度は理念に沿って成長できる点を挙げ、現状と課題を明確にして目標を設定して取り組んでいる。時間の有効活用について話し合う機会があり、利用者と共に生活を送るために調理の時間をとったり、話をする機会を多く持つ等、気づきを持ち支援することでケアの質の向上を図るとともに理念に基づいた支援が行うことができている。 ユニット内の職員だけで考え支援を行うだけでなく、今年度は他のユニットの利用者の状態や状況の情報を共有することで全職員でどのように支援すれば利用者の方が今まで通り誇りをもって暮らし続けることができるか各ユニットでカンファレンスを持ち支援するように取り組みを行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の一員として自治会に加入し、地域の方が気軽に立ち寄れるホームとして、また日々の外出、買い物、地域の行事への参加を通じ交流を図っている。今年度も、地域住民とともにSalon de l'Olympia Nada(講演会等)を開催し、地域とのつながりがより深くなっている。トライやるウィークの中学生も受け入れている。 | Salon de l'Olympia Nadaの活動も継続している。居宅介護支援事業所が併設され居宅を訪ねて来訪される方が増え、交流の機会や理解が深まっている。開催のSalon de l'Olympia Nada広報誌の配布を地域を広げて配布し、より広範囲の地域で理解をしてもらえるようになっている。また、地域の方に無料で講演会を開催しており、事業所だけでなく、発達障害への取り組みについても理解してもらえるよう取り組んでいる。トライやるウィークの受け入れも継続しており、参加中学生から様々な学びや気づきができたと言紙をもらっている。 NADAフェスのイベントを通して利用者と共に話し合いを行い、地域に向けて活動・交流ができている。広報活動の開催案内のチラシ配りも利用者と共に分担して行っており利用者のアイデアを多く取り入れ、職員と共に地域活動を行い、地域の人との関わりを積極的に持っている。利用者の積極的な活動を通して職員のモチベーションも向上し相乗作用で地域活動が活発になっている。 | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------|---|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 3 | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | Salon de l'Olympia Nada、オリンピア福祉塾講座等の勉強会を開催したり、地域での会合に講師としての参加を通じ、地域の方の「認知症」の理解や支援に努めている。また、地域の方の見学も多く、現場での経験を活かして相談に乗り、居宅、デイサービスの利用やグループホームの入居につなげている。 | | |
| 4 | (3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、写真やビデオ等を利用し、日々の生活やイベントの様子を報告している。また、評価への取り組み等についても報告し、質向上のための話し合いをしている。会議で出された意見・要望等には素早く対応し、サービス向上に活かしている。利用者も数多く参加している。 | 2ヶ月に1回、入居者・家族、地域代表者(2名)、あんしんすこやかセンター職員、大学准教授の参加がある。行事報告や活動報告を行うだけでなく、自己評価について報告も行う、自らの今後の取り組みについて報告、説明を行い質向上への意見や提案も受け反映させている。 | |
| 5 | (4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市担当者とは役所に出向いたり、電話等により日常的に情報交換を行い、適切な指導を受けている。今年度もSalon de l'Olympia Nada開催にあたり、問い合わせ等積極的に行っている。また、市担当者からの見学も受け入れ、より良い協力関係の構築に努めている。 | 市の担当者の方とは出向いて積極的に交流・情報提供と共有を図るだけでなく、普段から電話連絡などでも相互の協同活動を行っている。米寿の利用者の方へは市の担当者に来訪してもらい、事業所への理解、協力関係を築くように取り組んでいる。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | <p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | <p>身体拘束廃止の理念をホーム長および全職員が共有し、身体拘束をしないケアに取り組むために研修を実施し、職員一人ひとりの意識の向上を目指している。また、玄関、エレベーターは日中施錠せず自由に出入りができるほか、心理的な鍵をかけないようにも取り組んでいる。</p> | <p>拘束をしないケアの実践に徹底して取り組んでいる。車いすは日中は移動時に使用するようになっている。普段車いすを使用されている方でも自ら歩く動作や立つ動作が見られる場合には、利用者の歩行や移動への意欲や意向であると捉え、安全に立位や歩行ができるように支援している。下肢筋力が低下しても、自らの意欲を尊重し移動ができるように支援方法を検討し利用者の意向や希望が抑制されることなく実現できるように取り組んでいる。事故報告について話し合う機会でも転倒・事故防止のために安全性を考え対応するだけでなく、利用者の自分で動くことができる意向、意欲を大切に下肢筋力Upができるように努め拘束をしないケアの実践の徹底が図られている。言葉使いについても各月のテーマの中で話し合う機会を持ち、「言葉による拘束につながらないように取り組んでいる。理事長研修の「オリンピアの歴史、理念を学ぶ」機会にも拘束や虐待について深い理解をし、実践するように努めている。入り口は昼間は常に開錠している。</p> | |
| 7 | (6) | <p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> | <p>高齢者虐待防止に関する研修を定期的実施し、虐待の定義や高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けている。虐待の危険性や早期発見の重要性、職員の心のケアについても話し合い、身体的な虐待だけでなく、心理的な虐待も見過ごされることがないように務めている。</p> | <p>オリンピア入職時より学んでいるパーソンセンタードケアの中で、利用者一人一人に対しての支援・ケアを考え行うことで虐待防止につなげている。利用者の言葉だけでなく、表情や行動も観察し職員が情報共有し何気なく発した言葉や態度、対応が利用者を傷つけていないか振り返り、話し合いを日々積み重ねることで全職員で防止に取り組んでいる。</p> | |

| 自己 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する制度の理解と活用について行政書士による研修を実施し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について知識を深める場を設けている。現在、利用している方もあり、必要性があれば適切な支援ができるよう努めている。 | オリンピア兵庫で実施されている「若手リーダー育成研修」の中で行政書士の方の「すぐに分かる成年後見制度」で学び理解を深め支援に活かすように取り組んでいる。すべてのポジションを数年前から公募制にしている。ポジションが空けば試験や面談を経てポジションに就くことができる。若手リーダー育成研修には、希望者が参加できる。現在は育成研修も部門長、リーダーが講師となり活動を行っている。制度の利用の希望・意向、利用の必要性があれば手続きを速やかに進め活用ができるように支援に努めている。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結、解約、改定等の際には、十分な時間を取り、利用者やご家族の立場に立って、理解・納得が得られるように説明を行っている。また、疑問点に関しては速やかに解決できるように対応している。 | 契約時は基本的にはご自宅に伺い実施するようにしてる。入居できるまでに期間があるため、イベントや活動への参加案内などを行い利用開始までも連絡を定期的に行うことでなじみの関係作りや利用開始後の生活がスムーズに行えるように取り組んでいる。契約時には、契約内容の項目に沿って利用者・家族の立場に立ち説明を行い理解と納得を得て利用開始できるように努めている。疑問や質問があれば職員・リーダーを通して返答・解決ができることを説明している。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族懇談会、運営推進会議、食事会等の行事やご家族来訪時、また来訪が難しいご家族にも定期的な連絡により、利用者、ご家族の意見・要望を聴く機会を数多く設けている。意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努め、寄せられた意見や要望は、全職員で共有し、速やかに運営に反映させるように取り組んでいる。 | 手書きでお便りを作成し、家族の方と定期的に連絡をとり意見や要望を出しやすいようにしている。家族が来訪された時には、月刊オリンピア灘を手渡すだけでなく、日ごろの様子を話し、意見や要望を聴取するようにしている。出された意見や要望は全職員で共有し、運営やサービスに速やかに反映させるように話し合い、積極的に取り組んでいる。ご家族ノートには家族が来訪されたときの話や意向・要望を記載し職員間で共有している。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ホーム長が全職員に定期的に、また必要に応じて面談を行ない、職員の意見や提案を汲み上げ反映させるように取り組んでいる。また、日常的に職員がホーム長に意見や提案しやすい関係性を築いている。法人全体としては、職員の提案を積極的に採用する方針を定めている。 | 継続的に職員からの意見や提案を多く取り入れ事業所全体の運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。夜勤のときなど職員から相談や意見や気づきなど聴取したり、職員の表情や様子に気配りをし、言葉かけを行い相談を受けたり、職員同士で相談や悩みを聞いたりして利用者の立場に立ち利用者を支援する姿勢に活かしている。ホーム長も職員からの話を積極的に聞くだけでなく、議事録やイベントの活動記録など職員の働く意欲だけでなく生活への意欲も出せるように配慮されている。ホーム全体がホーム長の話積極的に聞き、話し合いを通して運営やサービスに反映させるだけでなく、自らの向上に取り組んでいる。リーダー会の定期的な会議以外に必要なに応じて集まり課題をもって意見聴取、検討、話し合い反映を行っている。会議に出席できなかった職員は議事録を確認し情報共有を図り運営やサービスの質の向上に役立てている。年度末に全職員が自己評価を行い、次年度へ向けての目標を設定し、職員それぞれがモチベーションを高く持ち意欲的に取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員一人ひとりが能力を発揮することができるように毎年目標を設定し、それに対する自己評価、上司による評価を実施している。努力や実績を積極的に評価することにより、得意分野を活かし、向上心を持って活躍できる環境整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員一人ひとりの現状を把握し、それぞれの段階に応じた研修やトレーニングの機会を積極的に提供している。内部研修を数多く実施するほか、各種の外部研修などを活用し、質の高い人材の育成に法人として取り組んでいる。年1回の海外研修も実施している。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|--|--|------|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修への積極的な参加等により、同業者との交流を通じ、サービスの質を向上させるように取り組んでいる。また、相互訪問の機会や他施設からの見学もあり、積極的に意見交換を行っている。宅老所・グループホーム全国ネットワークにも加入している。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に実施する面接において、「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、ご本人の立場に立って、不安や要望等を聴く時間を設けている。安心して新しい生活を迎えていただけるように、サービスを導入する段階から信頼関係の構築を目指している。 | | |
| 16 | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居までにご家族が抱えている不安や様々な要望を確実に把握するため、面談や来訪を通じてご家族の思いを十分聴く時間を設けている。ご家族の思いを受け止め、信頼関係を構築し、サービスの導入を行うようにしている。 | | |
| 17 | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談を受けた時に、ご本人とご家族が今置かれる状況を的確に把握し、まず必要としている支援を見極め、早急かつ適切に対応できるよう努めている。必要に応じて、法人内外の他のサービスへの支援も行っている。 | | |
| 18 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活の主人公は利用者ご本人であり、職員は生活のお手伝いをさせていただくという理念のもと、日々の喜びや悲しみを共有し、お互いに支え合い、向上することができる関係を築いている。利用者から生活の知恵など多くのことを学び、利用者が職員を支えるという場面も生まれている。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------|---|--|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人がこれまで通りの生活を送るためにはご家族の協力が必要であることを伝え、共にご本人を支える関係づくりに取り組んでいる。常にご家族と密に情報交換を行い、職員の利用者に対する思いも伝えるよう努めている。 | | |
| 20 | (11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご本人のこれまでの人生をよく知り、馴染みの人や場所を訪れる機会を設け、関係性を途切れさせないように支援している。ご家族の協力を得て、ご自宅や思い出の場所への外出を実現したり、小学校の教師をされていた方がクラス会に出席されたりと、慣れ親しんだ環境への関わりを継続して持てるように努めている。 | 地域の図書館の利用で馴染みの人と再会したり、教え子の誘いで同窓会へ参加できるように支援する等、馴染みの人との交流により見られる利用者の表情や行動を利用者本人への支援に活かすように取り組んでいる。利用者の希望で商店街への買い物や居酒屋に行き地域との関係が途切れることなく暮らせるように支援している。共用型デイサービスの利用者との新たな馴染みの関係も構築・継続できるように支援している。 | |
| 21 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を常に把握し、利用者同士が共に助け合い、支え合えるように支援している。利用者同士が相談して物事を決め、互いに思いやり、労働場面を常に尊重し、職員は介入しすぎることなく自然に関わるよう努めている。またユニットを越えての利用者同士の関係作りにも取り組んでいる。 | | |
| 22 | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス期間中に培った信頼関係を大切にしながら、サービス利用終了後も、必要に応じてご本人・ご家族と連絡を取り、必要な支援をしている。またご家族からも、ボランティアとして定期的な来訪、他の利用者のご機嫌伺いを兼ねての来訪、ご友人の紹介等支援していただいている。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|---|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | (12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いや希望、意向を常に把握し、職員間で共有し、日々のケアに活かせるようにしている。また、意思疎通が難しい方も、表情や行動、言葉の端々から気持ちを汲み取れるよう努めるとともに、ご家族からも話を聴き、思いや意向に添った生活が送れるよう取り組んでいる。 | 朝の集まりで、みんなでどのように過ごしたいか思いを出し合い把握するようにしている。また、利用者一人一人の一日の過ごし方を聞き取り、利用者の思いや意向に沿って過ごせるように支援している。利用者自ら意向を訴えにくくなっている利用者の方にも自らの意向を表現しやすいような言葉かけで、思いや意向を出しやすいように努めている。把握できたことはアセスメントシートに明記し、言葉での表現が難しくなっても利用者の視点に立ち思いや意向を考え話し合い、支援していくことができている。 | |
| 24 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 「今まで通りの生活」を大切に、一人ひとりの生活スタイルに沿った支援ができるように、ご本人やご家族からの情報収集に努めている。また、センター方式のアセスメントを有効に活用することで、生活歴やサービス利用の経過等を把握している。 | | |
| 25 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の暮らしの流れに沿って、一人ひとりの現状を総合的に把握するように努め、利用者の有する力の変化に柔軟に対応している。利用者の新しい発見、些細な変化等については、リスク予測シート、カンファノート等を活用し、情報を可視化して共有することで日々のケアに役立てている。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------|---|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | センター方式を用い利用者ご本人の視点にたつて、ご家族の意向、職員の日々の気づきを反映させるように介護計画を作成している。定期的な見直しのほか、日々のカンファレンスや毎月の担当者中心の事例検討においてモニタリングを実施し、現状や課題の把握に努め、随時見直すようにしている。 | センター方式の書式を用いて把握できた利用者の状態や状況を記録し、職員間で情報共有できるようにしている。センター方式に書式に記載された内容に変更・追加があればその都度記載し更新している。センター方式でアセスメントを実施しグループホームサービス計画書の作成を行っている。毎月ケアプランの振り返りの集まりを持ち利用者の状況を確認して、些細な変化を見逃さないようにモニタリングを実施している。3ヶ月毎に計画の評価を行い見直しの有無を確認し、計画の見直しを実施している。利用者の日々の様子は、「ワーカー日誌」に記載すると共にワーカー日誌に記載された内容は個別の記録に転記されている。 | |
| 27 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者一人ひとりの日々の様子や状況を適切に記録し、職員間で情報を共有しながらケアに活かしている。利用者の生きた証であるという意識を全職員が持ち、言葉や仕草、表情等を細かく記録し、介護計画の見直しに反映させるようにしている。 | | |
| 28 | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者一人ひとりの状況やニーズに応じて、話し合いを重ねながら柔軟なサービス提供に取り組んでいる。重度化や看取りに関しても必要な医療との連携を図り、要望に応えられるように尽力している。また、デイサービス利用により馴染みの関係作りをした上でスムーズに入居されるケースも多い。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議などを通して地域包括支援センターとの協働のほか、近隣の商店街や理美容院、病院等の地域資源を把握し、利用者一人ひとりの持てる力を発揮しながら、地域の持つ力を活用できるように支援している。また近隣保育園との交流も頻繁に行っている。 | | |
| 30 | (14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人・ご家族の希望に応じて、かかりつけ医、または協力医療機関に受診できるように支援し、受診結果の情報の共有ができるように努めている。また、利用者の健康面で些細な変化や心配事があれば、その都度気軽に相談できるよう、かかりつけ医との関係作りにも努めている。 | 入居時に確認した希望のかかりつけ医への受診ができるように支援している。内科など専門医の往診があり適切に医療を受けることができている。利用者の病状の変化や身体状況に応じて、バイタルサインのチェックの時間や回数を検討し、身体状況の変化に早期に対応できるように取り組んでいる。かかりつけ医には、利用者の日々の状態を情報提供するだけでなく、利用者の発言なども報告することで処方薬の検討や変更検討に役立ててもらっている。利用者の些細な変化を見逃さず、早期発見・対応をしているため急な受診や救急搬送が現在ほとんどない状況にある。 | |
| 31 | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ケアリーダーとして看護師を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた適切な支援が常に行える体制が整っている。日頃からケアに携わっている職員が看護師ということで、利用者、職員だけでなくご家族からも相談を受けている。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------|--|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | (15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の入院時には、利用者の情報提供とともに、安心して過ごせるように、職員や利用者が頻繁にお見舞いに行っている。また、入院によるダメージを最小限にとどめるため、早期退院に向けて病院関係者やご家族との情報交換や積極的な支援に努めている。 | 入院された場合には、職員がこまめに利用者の状態を把握するようにしており、把握できた情報を連絡ノートに記載し全職員で情報共有を図り、早期に退院し適切な支援を受けもとの生活に戻ることができるように積極的な支援が行われている。地域医療連携室との連携も密にとり退院に向けた支援が速やかに取れる体制を整備している。 | |
| 33 | (16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に、重度化や終末期に関して方針を説明している。その後も状態の変化に応じて、利用者・ご家族の意向にそえるよう、随時話し合いを繰り返している。最期までその人らしい暮らしを支えるため、ご家族やかかりつけ医等の関係者と連携を図りながらターミナルケアに取り組んでいる。 | 重度化・終末期に向けた方針については、契約時より説明し理解を得ている。重度化してきた状態の段階に応じて説明、話し合いを行い利用者・家族の意向に沿った支援を行っている。医療機関での治療が困難であり、利用者・家族の希望があれば最後までその人らしく過ごせるように、医療関係者・家族・職員と連携を図り看取りを行うようにしている。 | |
| 34 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変や事故発生時に対応できるように、内部研修を定期的開催したり、公的機関による市民救命士講習等外部研修を全職員が順次受講したりしている。またリスク予測シートを作成し、事故を予防できるようにも取り組んでいる。 | / | |
| 35 | (17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 非常災害時の対応について法人内で研修を定期的実施するとともに、昼夜を想定した消防避難訓練を年に2回実施している。また日常的に交流のある自治会、消防署等との連携を図りながら、災害発生時には協力が得られるように取り組んでいる。災害に備えて備品等の準備もしている。 | 避難訓練は昼夜想定で年2回自主的に実施している。消防設備の点検も兼ねて消防設備会社の協力を受け年2回消防避難訓練を実施している。非常災害時の地域からの協力依頼を行っている。災害時の備蓄の備えもある。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全職員が、敬語で話をする事、尊厳ある生活のお手伝いをする事をオリンピア灘の約束として取り組んでいる。また、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応等、職員同士注意しあいながら日々のケアの中で活かせるように努めている。 | 職員はトイレ・入浴時は、他の利用者と少し離れたところで声かけしたりすることは当然の配慮であると捉え、理念に基づいた一人ひとりを大切に丁寧な対応が徹底されている。日々利用者とかかわる中で尊厳やプライバシーを損ねそうなが見受けられれば職員同士声かけを行い、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを大切に支援に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、利用者が自己決定できるように職員は依頼型で声掛けをし、利用者が思いや希望を表すことができるよう取り組んでいる。意思表示が困難な方に対しては、表情や仕草から思いや希望を汲み取るようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、一人ひとりの生活のリズムやペースを大切に、毎朝、どのように過ごしたいかを話し合い、希望にそって支援している。また、利用者が希望を気軽に伝えやすい雰囲気作りにも努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その人らしさが失われないよう、その人らしい身だしなみやお洒落ができるように支援している。毎朝ご自分でお化粧をされる方もいる。また、近隣の行きつけの美容室では、利用者の好みのヘアスタイルを楽しめるよう相談しやすい関係ができています。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------|---|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりのもてる能力を引き出し、献立作りから調理、後片付けまで、積極的に参加されるように取り組んでいる。利用者同士で声を掛け合い調理や片付けをされる時もある。また、食事の時間は心が開く時ということを全職員が理解し、利用者と一緒に食事の時間を大切にしている。 | 利用者一人ひとりが持てる力を発揮し食事作りを楽しんでいる。外食や出前をなどで、いつもと違う献立を楽しんだり、全ユニットが一同に会して大勢で食べることを楽しむ機会を持つなど、食を通しての生活の質の向上に取り組んでいる。イベントや来客があるときの献立も利用者と共に話し合い取り組むことで、おもてなしを楽しんでいる。誤嚥性肺炎を起こされた方もしっかり噛み、飲み込みを行い機能回復だけでなく向上できるように支援し食事を楽しんでいる様子がうかがえる。水分摂取は1日1000～1200mlを目標に小まめに摂取を勧め脱水予防、便秘予防につなげ健康管理に活かしている。 | |
| 41 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員が利用者とともに食事をするにより、好みや食事・水分量を把握し、異変があれば職員間で共有している。食事・水分量が低下しつつある利用者は、好みや生活習慣を見直し検討している。また、栄養バランス等については、法人内の栄養士のアドバイスを受けている。 | | |
| 42 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 職員は口腔ケアの重要性を理解し、一人ひとりの口腔状態や、ご本人の力に応じた口腔ケアを一緒に考え実施している。歯科医院や法人内の歯科衛生士からもアドバイスを受け、口腔内の清潔保持に努めている。 | | |
| 43 | (20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、排泄の自立に向けて支援している。また、羞恥心や不安を軽減するためのさりげない声かけとともに、排泄用品の使用を減らせるよう、一人ひとりに合った排泄方法の検討を常にしている。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------|---|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日々の食生活において、食事のメニューの工夫や適切な水分補給を行うことにより、便秘を予防する取り組みをしている。また、一人ひとりの能力に応じ、散歩や体操など積極的に運動ができるよう支援している。 | | |
| 45 | (21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの習慣や希望に添っていつでも気持ちよく入浴できるよう、職員間で協力しながら支援している。あまり入浴を好まない利用者についても、不安や羞恥心等を取り除き、安心して入浴できるよう支援するとともに、ご自分から入浴したいと言えるような雰囲気づくりや声かけも行っている。 | 利用者個々の状況や希望に合わせて職員が声かけや誘導を行い、入浴が気持ち良くできるようにしている。利用者の羞恥心や不安を最小限にするようにするだけでなく、利用者が入浴を嫌がる理由を利用者の立場に立ち考え・検討を行い入浴を気持ち良くしてもらえるように取り組んでいる。 | |
| 46 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者一人ひとりが必要な休息や睡眠をとれるよう、生活リズムやその日の状況に応じて支援している。一律の就寝時間などは設けず、一人ひとりの生活のペースを尊重し、就寝前にはリラックスして過ごせるよう配慮している。また使い慣れた枕等を持ってきている方もいる。 | | |
| 47 | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全職員が薬の目的や用法を把握できるように薬リストをファイルし、適切な服薬の援助ができるように、日々情報の共有を行っている。服薬時には確認を怠らず、誤薬等の事故防止に努めるとともに、身体状況の変化についても医師との情報交換を密に行っている。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりのこれまでの人生をよく知り、楽しみごとの継続、役割を持った生活等、その人らしく過ごせるよう支援している。また、カンファノート等を活用しながら、常に新しいことにチャレンジし、喜びへとつながるよう取り組んでいる。ご家族が知らなかった趣味をを発見することもある。 | | |
| 49 | (22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりの希望に応じて、日常的に外出できるように支援している。また、馴染みの場所、普段は行けないような場所へも、ご家族の協力を得ながら取り組んでいる。沖縄、城崎温泉、有馬温泉、夕日が浦温泉、淡路島等、これまでもご本人の希望を数多く実現させている。 | 少人数、個別に沖縄旅行や温泉旅行に出かける機会を持ち、日々の生活が活力あるものになるように支援を行っている。外出支援を通して見られる利用者の表情や変化をその後の支援に活かしている。日ごろの利用者の発言から行きたい場所を把握し希望の外出が楽しめるようにしている。下肢筋力向上も屋内での生活行動やテレビ体操など自然な形での支援をおこない外出が楽しめるように積極的な支援を行っている。利用者が自ら下肢筋力向上を図る目的をもって階段昇降の訓練が行えるように支援を行い、筋力向上ができて生活の行動範囲の広がりができている。 | |
| 50 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | これまで通りの暮らしを続けるために、お金を持つことが大切であることを職員は理解し、一人ひとりの希望や能力に応じた支援をしている。お金を所持していることから安心感も生まれ、買い物への意欲も高まっている。 | | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者がご家族や友人に気軽に電話をかけたり、暑中見舞いや年賀状等、時候に応じて手紙のやりとりをしたりできるよう支援している。また、外出の報告の手紙を、利用者と職員と一緒に作成し、ご家族に送るということにも取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各ユニットをひとつの家として捉え、個性を大切に、利用者と共に季節の花や写真を飾ったり、利用者の趣味の作品を飾ったり等、生活感や季節感を取り入れるようにしている。また、天窗等を利用して、自然の音や光、風をうまくいかすことによって、居心地のよい空間作りに努めている。 | 1階の本棚に本だけでなく、手に届くところにアルバムや趣味や嗜好が楽しめるものを設置している。廊下のスペースにも椅子を置き、利用者が思い思いに休憩して過ごすことができるようにしている。その時期・季節に合わせたタペストリー作りを利用者と共に行い飾りつけを行っている。各階の表札を外し一人ひとりの写真を飾り柔らかな雰囲気づくりを行っている。建物横に畑を利用者と共に作り、利用者と共に作物を育て、収穫し、収穫物を食べて楽しんでいる。近隣の方にも育った作物をおすそわけをして、近隣とのつながりにも役立てている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ユニットの随所にソファやテーブルセットを設置することで、一人で過ごしたり、気の合う方とのんびり語らえたりする居場所となっている。また、共用スペースにピアノを置くことにより、利用者同士でピアノを弾いたり、ピアノに合わせて歌ったりと、それぞれ思い思いに過ごせる場所にもなっている。 | | |
| 54 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、ご家族の協力を得て、使い慣れた家具、思い出の品々を持ち込まれ、利用者にとって居心地がよく、その人らしく過ごせるスペースとなっている。ベランダに大切な鉢植えを置かれ、水やり等楽しみのひとつになっている方もいる。 | 居室は使い慣れた家具や小物の持ち込み、個々の利用者の個性を大切に落ち着いた過ごせる空間となっている。利用者の趣味を活かしベランダに花や観葉植物の鉢を置き、利用者自身が水やり等の世話が楽しめるような配慮がなされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している | 利用者一人ひとりの状態に応じ、「できること」や「わかること」を活かした環境づくりに努めている。家庭的な雰囲気を大切に、安全に配慮した上で、できるだけ自立した生活を送ることができるよう工夫をしている。 | | |